



第183期 業績のご報告

2006年4月1日～2007年3月31日



ブランドスローガン
感動を・ともに・創る

ヤマハグループは
音・音楽を原点に培った技術と感性で
新たな感動と豊かな文化を
世界の人々とともに創りつづけます。

目次

株主の皆さまへ	1.2
連結事業の概況	3.4
特集	5.6
新中期経営計画YGP2010	
新商品&トピックス	7~12
連結財務諸表	13.14
個別財務諸表	15
株式の状況	16
株主優待のご案内	17
会社の概要	18
株主メモ	18

株主の皆さまへ

株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社第183期(2006年4月1日から2007年3月31日まで)の事業の状況についてご報告申し上げます。

当期におけるわが国経済は、好調な企業収益や堅調な設備投資等の民間需要に支えられ、景気は緩やかに成長しました。海外の経済につきましては、米国は景気拡大の減速感はあるものの堅調に推移し、欧州は内需の拡大により景気は着実に回復、中国をはじめとするアジア諸国では好調な輸出と内需の拡大に支えられ景気の拡大が続きました。

このような状況の中で当社グループは、最終年度となる中期経営計画「YSD50」の3つのテーマ「持続的・安定的な高収益構造の確立」、「独創的かつ高品質な商品開発／事業創出」、「企業の社会的な責任を重視した経営」に継続的に取り組んでまいりました。

「持続的・安定的な高収益構造の確立」につきましては、中国製造拠点の生産設備を増強し、国内のピアノ製造拠点の統合を推進する等、国内外の楽器製造拠点を再編・整備しました。成長領域に経営資源を集中投資するため、多角化事業の収益基盤の安定化に努め、事業の整理・

統合を進めました。また、引き続きSCMシステムの構築やスタッフ部門の効率化に努めました。

「独創的かつ高品質な商品開発／事業創出」につきましては、音質にこだわったアップライトピアノやデザインを重視した高付加価値商品等を発売したほか、当社独自技術を活かした商品やネットワークを活用した商品・サービスを積極的に投入しました。音響機器分野では、業務提携・M&Aにより新たな商品展開を図る等事業の拡大を進めました。海外では、中国市場での大幅な事業拡大を図るとともに、ロシア等新興市場の開拓に努めました。

「企業の社会的な責任を重視した経営」につきましては、コンプライアンス教育の徹底や環境問題への対応を進めました。また、新たに「CSRレポート」を発行しました。

販売の状況につきましては、楽器事業が円安の影響もあり堅調に推移したことから、当期の売上高は5,503億61百万円(前期比3.0%増加)となりました。

損益につきましては、半導体の売上げ減少と利益率低下により電子機器・電子金属事業が大幅な減益となりましたが、楽器事業の増益により、営業利益は276億85百万円(前期比14.7%増加)となりました。経常利益は持分法による投資利益が増加したことにより426億26百万円(前期比



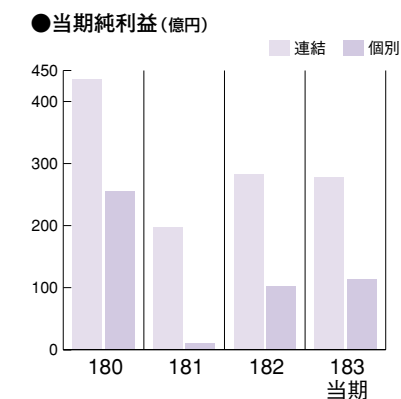
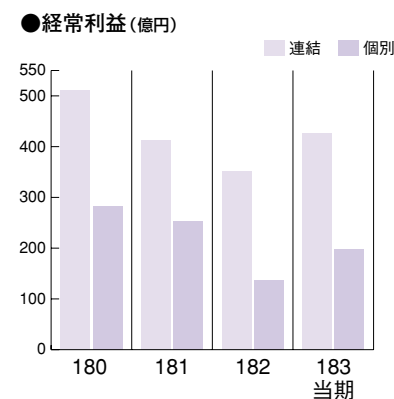
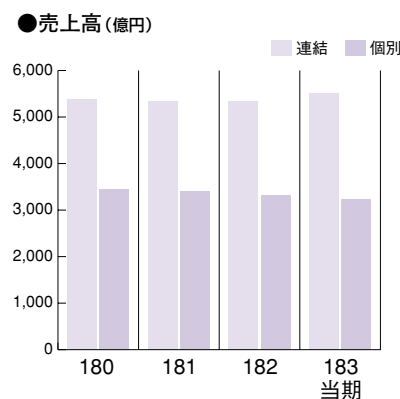
20.9%増加)となりました。当期純利益は、レクリエーション事業資産の減損損失と海外製造子会社の閉鎖関連費用を特別損失に計上したことにより、278億66百万円(前期比0.9%減少)となりました。

当社グループは、本年4月から新中期経営計画「YGP2010(Yamaha Growth Plan2010:2008年3月期～2010年3月期)」をスタートさせました。同計画の成長戦略を着実に実現すべく、「The Sound Company」領域での成長の実現と、「多角化事業」領域での強固なポジションの確立に取り組んでまいります。また、事業・商品戦略を強化するためのブランド戦略の推進等の全社共通テーマや、グループ総合力を高めるガバナンスの向上にも努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2007年6月
代表取締役社長

梅村 充



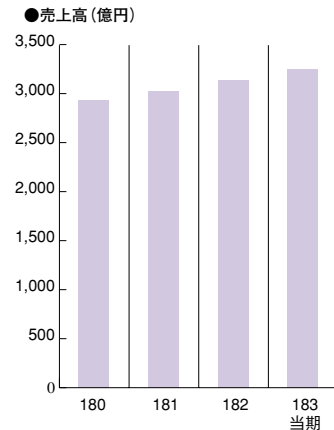
楽器事業

ピアノは、欧州や中国他アジア市場で好調に推移しましたが、北米市場低迷の影響により、前年並みの売上げとなりました。電子楽器は、エレクトーンは売上げ減少となりましたが、海外市場においてポータブルキーボード等が好調に推移しました。音響機器も、海外市場において大幅な売上げ増加となりました。また、管楽器も好調に推移しました。教室収入は、音楽教室、英語教室とも堅調に推移しましたが、コンテンツ配信は着メロ市場の縮退により売上げ減少となりました。

以上により、当事業の売上高は3,259億89百万円（前期比3.8%増加）、営業利益は220億37百万円（前期比55.9%増加）となりました。

なお、音響機器市場での成長と販売拡大のため、2007年2月22日付で不二音響株式会社の全株式を取得し、当社の子会社となりました。

■主要連結子会社
 (株)ヤマハミュージック東京他販売会社10社
 Yamaha Corporation of America
 Yamaha Canada Music Ltd.
 Yamaha Music Holding Europe G.m.b.H
 Yamaha Music Central Europe G.m.b.H
 Yamaha-Kemble Music (U.K.) Ltd.
 Yamaha Musique France S.A.S.
 P.T.Yamaha Music Manufacturing Asia
 雅馬哈楽器音響(中国)投資有限公司
 天津雅馬哈電子楽器有限公司
 杭州雅馬哈楽器有限公司
 ■主要製品
 ピアノ、電子楽器、管・弦・打楽器、教育楽器、音響機器、防音室、音楽教室、英語教室、コンテンツ配信、調律

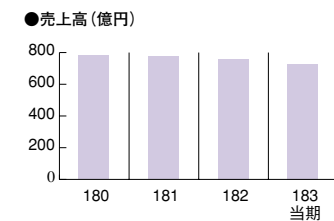


AV・IT事業

オーディオは、主力のAVレシーバーが欧米で順調に売上げを伸ばし、またデジタル・サウンド・プロジェクターの伸長により売上げ増加となりましたが、情報通信機器は売上げ減少となりました。

以上により、当事業の売上高は728億23百万円（前期比4.1%減少）、営業利益は21億37百万円（前期比1.2%増加）となりました。

■主要連結子会社
 ヤマハエレクトロニクスマーケティング(株)
 Yamaha Electronics Corporation,USA
 Yamaha Elektronik Europa G.m.b.H
 Yamaha Electronics Manufacturing (M) Sdn.Bhd.
 雅馬哈楽器音響(中国)投資有限公司
 ■主要製品
 オーディオ、情報通信機器



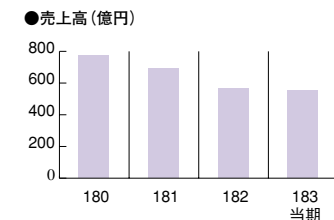
電子機器・電子金属事業

電子機器事業は、携帯電話用音源LSIの需要減少により、売上げ減少となりました。電子金属事業は、材料価格上昇を反映した値上げ等により、売上げ増加となりました。損益につきましては、半導体の売上げ減少と利益率の低下により、大幅な減益となりました。

以上により、当事業の売上高は548億9百万円（前期比2.4%減少）、営業利益は31億1百万円（前期比60.9%減少）となりました。

なお、2007年3月20日付で当社子会社ヤマハメタニクス株式会社の発行済株式総数の90%にあたる株式を譲渡することについて、DOWAホールディングス株式会社及びDOWAメタルテック株式会社との間で基本合意いたしました。

■主要連結子会社
 ヤマハ鹿児島セミコンダクタ(株)
 ヤマハメタニクス(株)
 ■主要製品
 半導体、特殊合金

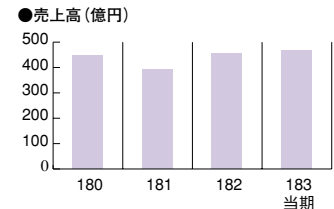


リビング事業

システムバスは、市場で競争激化と単価ダウンが進行しましたが、システムキッチン、人造大理石シンクを装備したモデルが好調に推移し、売上げ増加となりました。

以上により、当事業の売上高は465億73百万円（前期比3.0%増加）、営業利益は11億50百万円（前期比1.6%減少）となりました。

■主要連結子会社
 ヤマハリビングテック(株)
 ■主要製品
 システムキッチン、システムバス、洗面化粧台



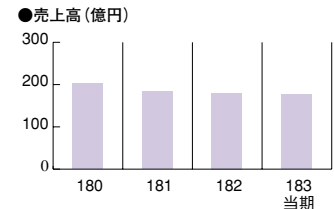
レクリエーション事業

日帰り客は増加しましたが、婚礼収入の減少や暖冬によるスキー宿泊客の減少により、売上げ減少となりました。

以上により、当事業の売上高は178億円（前期比1.2%減少）、営業損失15億36百万円（前期は営業損失17億89百万円）となりました。

なお、2007年3月23日付で三井不動産株式会社との間で「鳥羽国際ホテル」、「合歓の郷」、「キロロ」、及び「はいむるぶし」の施設及びその運営子会社株式の全部を譲渡することについて基本合意いたしました。

■主要連結子会社
 (株)キロロアソシエイツ他5社
 ■主要製品
 観光施設・宿泊施設・スキー場及びスポーツ施設の経営

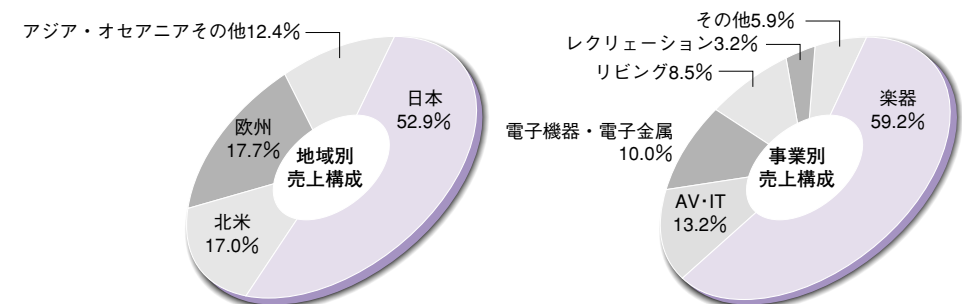
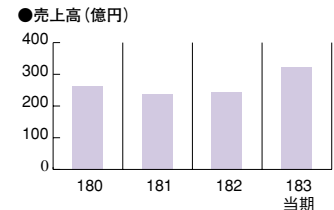


その他の事業

ゴルフ用品事業は、国内販売の好調に加え輸出が拡大したため、売上げ増加となりました。金型・部品事業は、マグネシウム部品やプラスチック部品が大幅に伸長し、自動車用内装部品事業も、売上げ増加となりました。

以上により、当事業の売上高は323億65百万円（前期比31.2%増加）、営業利益は7億94百万円（前期比36.5%増加）となりました。

■主要連結子会社
 ヤマハファインテック(株)
 ■主要製品
 ゴルフ用品、自動車用内装部品、FA機器、金型・部品



新中期経営計画
(2007/4-2010/3)
Yamaha Growth Plan 2010
~ Act & Change! ~

YGP ACT & CHANGE! 2010
 全社一丸となって
 成長戦略を確実に実行し (Act)
 成長フェーズへのシフトに向けて
 会社を変えていきます (Change)

当社は、2008年3月期から2010年3月期までの3年間の、経営の基本方針を定めた新中期経営計画「Yamaha Growth Plan 2010 (YGP 2010)」を策定しました。

YGP2010 事業ビジョン



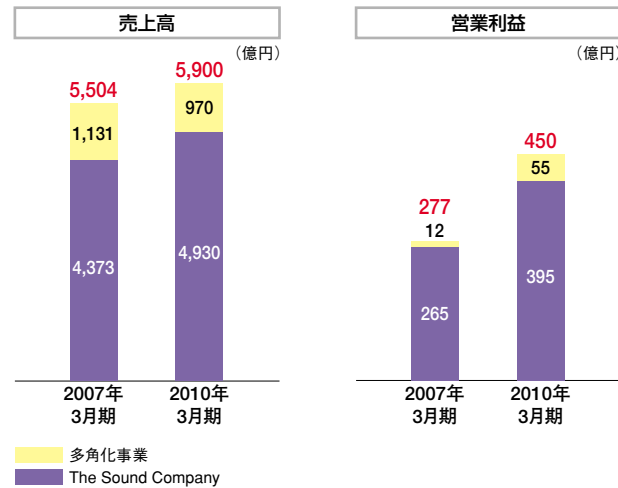
※PT: プロダクティブ・テクノロジー (FA・金型・自動車用内装部品ほか)

“The Sound Company” 領域
 音・音楽・ネットワーク関連技術を基盤として、楽器・音響・音楽ソフト、AV・IT、デバイス領域における事業の深化、拡張、創造を通じて、グループの成長を牽引する

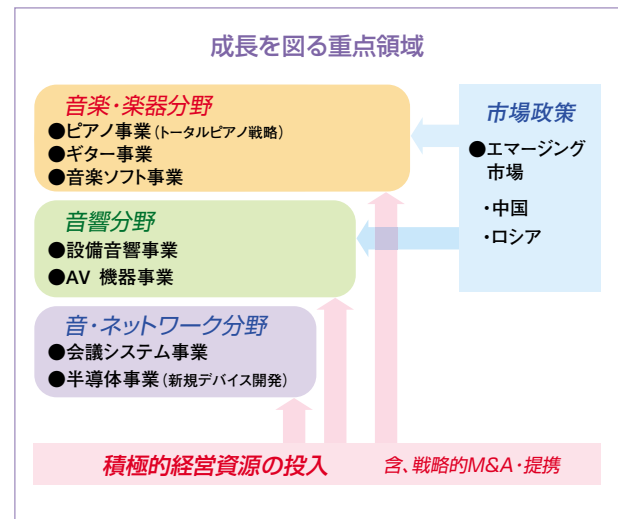
“多角化事業” 領域
 ブランドスローガン「感動を・ともに・創る」のもと、これまでの事業運営で培った独自の技術と感性を活かし、各業界における強固なポジション確立と健全な事業運営により、グループの企業価値増大に貢献する

YGP2010 数値目標

当計画の最終年度となる2010年3月期には、連結売上高5,900億円、営業利益450億円を目指します。



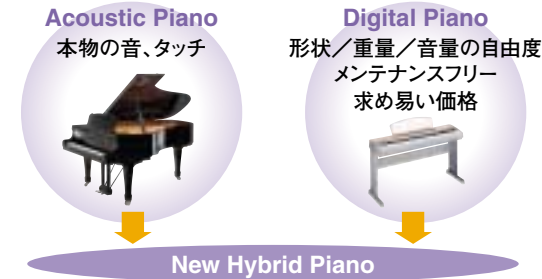
「The Sound Company」領域での成長



●ピアノ事業

トータルピアノ戦略によるピアノ事業の拡大

お客様の視点でアコースティックとデジタルピアノのラインアップを再構築し、音質、タッチやデザインなどに優れた「ニューハイブリッドピアノ」を充実させていきます。



- ①本物のタッチと音**
 ~アップライトピアノを凌ぎグランドピアノに迫る音、タッチ
- ②利便性のアップ**
 ~自在な音量・小型軽量化・メンテナンス最小
- ③自由度の高いデザイン**
 ~ライフスタイルに応じた形状・デザインテイスト

●音楽ソフト事業

グループ内の音楽ソフト業務の再編・統合による事業拡大

アマチュア活動支援、アーティスト発掘・育成・サポート、コンテンツ制作・供給を、新設した事業統括会社のもと機能別子会社により運動的に推進します。



着うた@サイト: 「ウタっちゃ!」

雑誌増刊: ピアノで弾くアニメ2006 ©2006 二馬カ・GNHDHT

CD:ララバイSINGER / 中島みゆき

●業務用音響機器事業

事業領域の拡大により成長を加速

当社が優位性を誇るデジタルミキサーに加え、スピーカー、アンプ等の商品強化とCommercial Installed Sound市場 (展示場、学校、宴会場、レストラン等) への事業拡大により成長を加速させます。



●AV機器事業

音質を追求することにより、高付加価値事業分野を拡大

中高級Hi-Fi商品の強化、フロントサラウンドソリューション分野での商品展開の拡大による成長を図ります。

●半導体事業

新デバイスの開発や新市場開拓を推進

従来の携帯電話音源LSIのほか、シリコンマイクやデジタルアンプなどのデバイス開発を進め、競争力を強化します。

●エマージング市場での成長

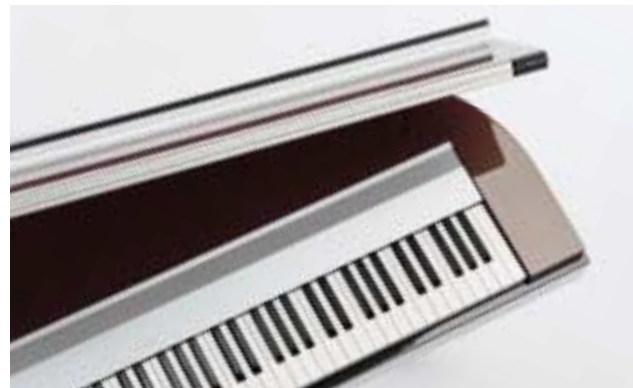
中国市場における楽器販売網構築・マーケティング強化と、ロシア現地法人設立による売上拡大



ヤマハピアノコーナーを設置した上海のピアノ販売店

中国杭州ピアノ・ギター工場

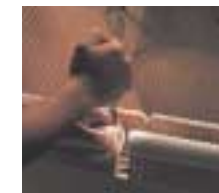
音のある風景。
華のある時間。
さらなる上質を追求するシリーズ、
ヤマハ「MODUS」



デザインを重視した新しいコンセプトのデジタルピアノMODUS「HO1」。「horizontal (水平・平面)」なラインを強調し、部屋の中央に置かれたテーブルのように、インテリアとして美しい存在感を表現しています。コンサートピアノの音をサンプリングした豊かな音色を、3ウェイスピーカーの広がりのある響きで再現。ショパンやドビュッシーなどのピアノ曲を50曲内蔵し、BGMとして楽しめます。

光沢感のある口紅をイメージさせる「ベルベットルージュ」(上)や、清楚で落ち着いた女性の亜麻色の髪をイメージした「ディーブルネット」(下)など3色のラインアップ。

ヤマハ掛川工場製モデル「YUS」「YU」シリーズ



整音は、ハンマーヘッドを整え音色・音量・全体のバランスを調整する仕上げ工程です。

アップライトピアノを全面的にモデルチェンジ。「YUS」シリーズは、コンサートグランドピアノ「CFⅢS」と同等のハンマーフェルトを採用して、明るくはっきりとした音色を実現。弦にはアップライトピアノの最上級モデル「SU7」と同等のものを使用して音の表現がより豊かになりました。ヤマハでは国内向けアップライトピアノは一貫して掛川工場で生産し、出荷時には熟練した技術者が丁寧に整音して音質を高めています。

もっと自由に演奏が楽しめるキーボード「D-DECK」

二段鍵盤、カラータッチ液晶やボイスセレクションなどがコンパクトにレイアウトされた操作パネルがライブ演奏をサポート。演奏者の指の動きが客席から見える斬新なフォルム、高スペックながら持ち運びができる軽量&コンパクトなボディを実現した、新しいカテゴリーのキーボードです。



D-DECK
DUAL MANUAL KEYBOARD

「D-DECK」のネーミングは、ロンドンの2階建てバス「ダブルデッカー」にちなんでいます。



イメージする音を瞬時に呼び出せるレジストレーションは288種類。ライブに最適なライブパフォーマンスメニューも用意しました。

モトフ エクセス
 いっそうの進化を遂げたMOTIF XS、登場

MOTIF XS8



演奏時や音色エディット時の情報が見やすい5.7インチカラー液晶ディスプレイ。



8本のスライダーとノブにより音色バランスやパラメータをリアルタイムにコントロール。

世界中のアーティストから高い支持を得ているヤマハシンセサイザー「MOTIF」の新商品「MOTIF XS」。新音源LSIとして従来の2倍以上の大容量ウェーブROMを搭載し、高品質なサウンドを実現。カラー液晶ディスプレイやVCMエフェクトを搭載、スライダー&ノブによりスムーズでスピーディなコントロールを実現。さらにネットワーク接続にも対応した究極のフラッグシップモデルです。



軽量コンパクト、デジタルミキサー「LS9」シリーズ

ヤマハデジタルミキサーは世界中の著名ホールやイベントで大活躍しています。その多彩な機能や高音質を一人で持ち運べるほどに小型・軽量化したのが「LS9」シリーズ。中小規模のライブやイベントに必要な機能を装備し、驚異的なパフォーマンスと抜群の操作性を実現。デジタルエフェクトやUSBメモリーレコーダーも搭載したオールインワンモデルです。

ヤマハ音響機器がテクニカル・グラミー賞を受賞

ヤマハが「テクニカル・グラミー賞」を受賞。当社のスピーカーやデジタルミキサーなどの音響機器が世界中の録音エンジニアやスタジオ施設の業界標準になっていることが受賞理由となりました。2007年2月10日にロサンゼルスで開催されたグラミー賞式典の初日に授与されました。



評価対象の1つ「NS-10M STUDIO」



グラミー賞の楯

拓郎&かぐや姫のつま恋コンサートを記念して
 限定モデル「The FG Sunset」を発売



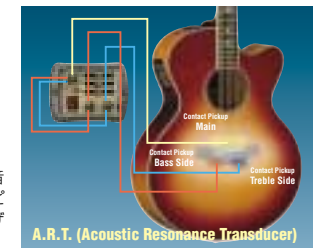
「吉田拓郎&かぐや姫Concert in つま恋 2006」が2006年9月23日に開催され、35,000人の聴衆が集まり、8時間半にわたって熱演が繰り広げられました。このコンサートとヤマハのアコースティックギター発売40周年を記念して「The FG Sunset」を発売。サンセットをイメージした赤色のバーストカラーに、つま恋コンサートを記念した内ラベルやインレイを施したこのギターは、コンサートでも使用されました。



を記念した内ラベルやインレイを施したこのギターは、コンサートでも使用されました。

極めて自然なアコースティックサウンドを実現

ボディの表板にスプルース単板を採用した完成度の高いギターに新開発の3ウェイピックアップを搭載し、リアルなアコースティックサウンドを再現するCPX/APXシリーズ。深胴のCPXシリーズは、アコースティックギターの豊かな響きを再現。APXシリーズは、薄型のボディによる演奏性を追求しました。



メインピックアップに加え、高音域用と低音域用の2つのサブピックアップを設置。各ピックアップの音量調整と3バンドイコライザーにより幅広いサウンドメイクが可能です。



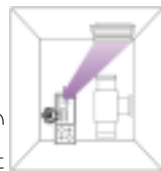
薄型TVにピッタリの簡単本格ホームシアター
スピーカーケーブル不要! リビングすっきり

ワンボディーの本体を前面に置くだけで、DVDはもちろん、地上/BSデジタルのサラウンド放送も本物の5.1サラウンドで楽しめる、今人気のデジタル・サウンド・プロジェクター。新製品「YSP-1100」は、リモコン操作ひとつで視聴位置に音声を向ける「マイビーム機能」を新たに搭載しました。専用ラックとの一体型システムも合わせてご用意しましたので、ご自宅ですら簡単に便利にお使いいただけます。



40個のスピーカーが創り出す音のビームを壁に反射させて本物の5.1サラウンドを再生。後ろからの音もはっきり聞こえ、臨場感が違います。

5.1chサラウンド



マイビーム機能を使えば騒がしい部屋でも音声を明瞭に聞けます。夜中に一人でテレビを見るときにも便利です。

マイビーム

より美しく、より使いやすい進化し続ける、
ヤマハのマーブルクラフト

ヤマハの人造大理石は耐熱性・耐衝撃性に優れ、カウンター&マーブルシンクは、お手入れやリニューアルが簡単でインテリア性が高く、いつまでも美しくお使いいただけます。より美しく、より使いやすい、人造大理石のもたらす快適さを暮らしの中に提案します。



DOLCE
LEGATO

ヤマハシステムキッチンの最高峰「ドルチェレガート」は、オープンキッチンから上質なLDKの空間を提案します。天然木の木目を引き立たせる塗装扉、カスタマイズ収納やリビング・ダイニング家具用部材の提供により、多彩なプランを可能にしました。

berry

人気シリーズ「ベリー」に新モデルを追加。V字型「マーブルファミリーシンク」はカウンターを囲んでみんなで調理ができる、家族との会話がはずむ、オープンキッチンの新提案です。また、鏡面塗装扉に日本の伝統色が加わり、さらに高級感が高まりました。



音楽のまち浜松で、ジャズフェスティバルと、
国際ピアノコンクール開催



アクトシティ浜松大ホールで開催。

「第15回ハママツ・ジャズ・ウィーク」の最終日2006年6月18日、ヤマハジャズフェスティバルが開催され、会場は多くのジャズファンで埋め尽くされました。今回は、ヤマハの楽器を愛用するアルトサックスの巨匠フィルウッズと日本ジャズ界の精鋭を集めたビッグ・バンドの競演が実現する超豪華なステージとなりました。



1位に選ばれたウクライナのアレクセイ・ゴルラッチさんの演奏。



審査委員長のピアニスト中村純子さん。両脇はアレクセイ・ゴルラッチさんと最年少の15才で第3位に選ばれた北村朋幹さん。

2006年11月「第6回浜松国際ピアノコンクール」が開催されました。若い才能を発掘することで国際的に注目されているこのコンクールでヤマハCFⅢSが大活躍。審査委員も「今までに聴いた最も魅力的なヤマハピアノ」と絶賛。ファイナルでは全員がヤマハCFⅢSを選択し、その優れた演奏性や音色が証明されました。



「のだめカンタービレで弾きたいクラシック」
「のだめ」に登場した13曲をあつめたピアノ楽譜集。

©ニノ宮知子/講談社

大人気のテレビドラマ「のだめカンタービレ」の
制作に協力

音大生の青春をコミカルに描いた人気アニメ「のだめカンタービレ」のテレビドラマが大人気でした。コンサートやコンクールのシーンを通じて、クラシックの名曲が身近に楽しめたのも魅力。ヤマハはピアノや管絃楽器、ティンパニなどを提供して協力しました。また、(株)ヤマハミュージックメディアからは、ガイドブックや楽譜を発売しましたがいずれも品切れになるほど好評でした。



ドラマ「のだめカンタービレ」
ミュージックガイドブック
5曲の楽譜に加え、出演者のインタビューや番組のストーリーを紹介。

©ニノ宮知子・
講談社/
フジテレビジョン

●連結貸借対照表の要旨

(単位:百万円)

	183期(当期) '07年3月	182期 '06年3月	(負債の部)	183期(当期) '07年3月	182期 '06年3月
(資産の部)			流動負債	136,656	117,047
流動資産	231,033	209,381	支払手形及び買掛金	43,165	37,153
現金及び預金	46,702	36,429	短期借入金	15,118	17,147
受取手形及び売掛金	78,669	72,613	一年以内返済の長期借入金	4,301	5,132
棚卸資産	82,214	77,943	未払費用及び未払金	54,415	43,098
繰延税金資産	17,724	16,922	未払法人税等	6,012	3,758
その他	7,782	7,806	諸引当金	5,976	3,963
貸倒引当金	△2,060	△2,333	その他	7,666	6,795
固定資産	327,998	310,595	固定負債	70,977	82,452
有形固定資産	149,872	150,990	長期借入金	6,132	6,195
償却資産	84,552	84,754	再評価に係る繰延税金負債	17,735	17,742
土地	63,495	63,772	退職給付引当金	27,140	27,978
その他	1,824	2,462	長期預り金	17,424	27,577
無形固定資産	2,951	3,545	その他	2,543	2,957
投資その他の資産	175,174	156,059	負債合計	207,633	199,499
投資有価証券	150,369	132,902			
繰延税金資産	16,790	14,087	(純資産の部)		
その他	9,038	9,939	株主資本	328,804	—
貸倒引当金	△1,022	△869	資本金	28,534	—
			資本剰余金	40,054	—
			利益剰余金	260,555	—
			自己株式	△339	—
			評価・換算差額等	17,662	—
			少数株主持分	4,931	—
			純資産合計	351,398	—
			負債純資産合計	559,031	—
資産合計	559,031	519,977			
			(少数株主持分)		
			少数株主持分	—	4,472
			(資本の部)		
			資本金	—	28,534
			資本剰余金	—	40,054
			利益剰余金	—	236,913
			土地再評価差額金	—	18,426
			その他有価証券評価差額金	—	15,470
			為替換算調整勘定	—	△23,091
			自己株式	—	△302
			資本合計	—	316,005
			負債、少数株主持分及び資本合計	—	519,977

●連結損益計算書の要旨

(単位:百万円)

	183期(当期) '06年4月~'07年3月	182期 '05年4月~'06年3月
売上高	550,361	534,084
売上原価	352,382	341,886
延払未実現利益	1	69
売上総利益	197,980	192,267
販売費及び一般管理費	170,295	168,132
営業利益	27,685	24,135
営業外収益	21,334	17,612
営業外費用	6,393	6,503
経常利益	42,626	35,244
特別利益	606	1,874
特別損失	10,130	1,276
税金等調整前当期純利益	33,101	35,842
法人税、住民税及び事業税	7,010	8,922
法人税等調整額	△2,268	△1,736
少数株主利益	493	532
当期純利益	27,866	28,123

●連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位:百万円)

	183期(当期) '06年4月~'07年3月	182期 '05年4月~'06年3月
営業活動によるキャッシュ・フロー	39,732	25,510
投資活動によるキャッシュ・フロー	△22,427	△18,104
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,246	△25,834
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,464	1,783
現金及び現金同等物の増減額	10,523	△16,644
現金及び現金同等物の期首残高	35,434	50,393
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	—	1,685
除外連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	△31	—
現金及び現金同等物の期末残高	45,926	35,434

●連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

183期 '06年4月~'07年3月	株主資本					評価・換算差額等					少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その 他有 価証 券評 価差 額金	繰 延 ヘッ ジ損 益	土 地再 評価 差額 金	為替換 算調 整勘 定	評価・換 算差 額等 合計		
'06年3月31日残高	28,534	40,054	236,913	△302	305,199	15,470	—	18,426	△23,091	10,805	4,472	320,477
連結会計年度中の変動額												
剰余金の配当			△4,126		△4,126							△4,126
当期純利益			27,866		27,866							27,866
連結範囲の変動			△0		△0							△0
持分の変動			△138	0	△138							△138
土地再評価差額金の取崩			121		121							121
役員賞与金			△80		△80							△80
自己株式の取得				△37	△37							△37
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						△1,752	△406	△309	9,325	6,857	458	7,315
連結会計年度中の変動額合計	—	—	23,642	△37	23,604	△1,752	△406	△309	9,325	6,857	458	30,920
'07年3月31日残高	28,534	40,054	260,555	△339	328,804	13,718	△406	18,116	△13,765	17,662	4,931	351,398

●貸借対照表の要旨

(単位:百万円)

(資産の部)	183期(当期) '07年3月	182期 '06年3月	(負債の部)	183期(当期) '07年3月	182期 '06年3月
流動資産	91,756	79,469	流動負債	65,538	51,271
当座資産	49,868	40,037	固定負債	56,197	67,193
棚卸資産	26,789	25,816	負債合計	121,736	118,465
その他	15,097	13,615	(純資産の部)		
固定資産	217,246	221,043	株主資本	164,509	—
有形固定資産	86,524	89,639	資本金	28,534	—
無形固定資産	99	99	資本剰余金	40,054	—
投資その他の資産	130,621	131,304	利益剰余金	96,216	—
			自己株式	△296	—
			評価・換算差額等	22,756	—
資産合計	309,002	300,513	純資産合計	187,266	—
			負債純資産合計	309,002	—

●損益計算書の要旨

(単位:百万円)

	183期(当期) '06年4月~'07年3月	182期 '05年4月~'06年3月			
売上高	323,043	321,252	資本金	—	28,534
売上原価	244,594	243,413	資本剰余金	—	40,054
延払未実現利益	—	69	利益剰余金	—	89,038
売上総利益	78,449	77,909	土地再評価差額金	—	10,415
販売費及び一般管理費	65,890	69,923	其他有価証券評価差額金	—	14,263
営業利益	12,558	7,986	自己株式	—	△258
営業外収益	7,996	6,462	資本合計	—	182,048
営業外費用	694	498	負債及び資本合計	—	300,513
経常利益	19,860	13,950			
特別利益	524	1,753			
特別損失	7,861	1,811			
税引前当期純利益	12,523	13,892			
法人税、住民税及び事業税	3,267	5,167			
法人税等調整額	△2,054	△1,517			
当期純利益	11,310	10,242			

株式の状況(2007年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 700,000,000株
- 発行済株式総数 206,524,626株
- 株主数 15,470名

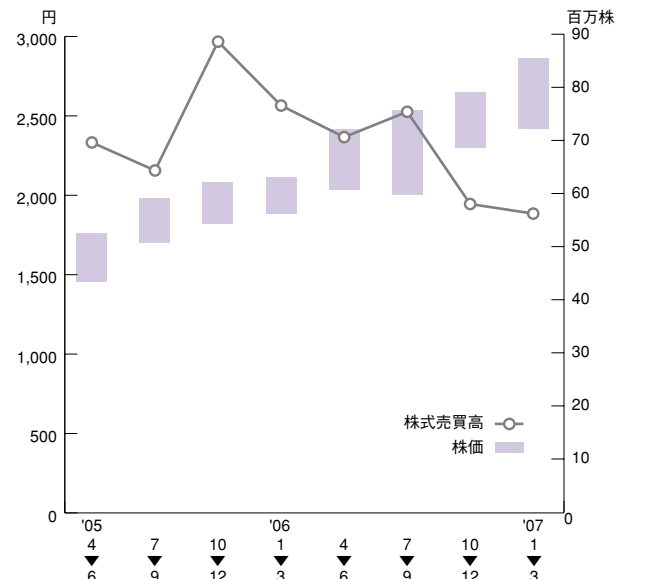
●株主分布状況

株主構成	株主数	株式数
個人・その他	14,788名	17,677千株
金融機関	88	97,383
其他国内法人	211	8,585
外国人	344	76,751
証券会社	39	6,125

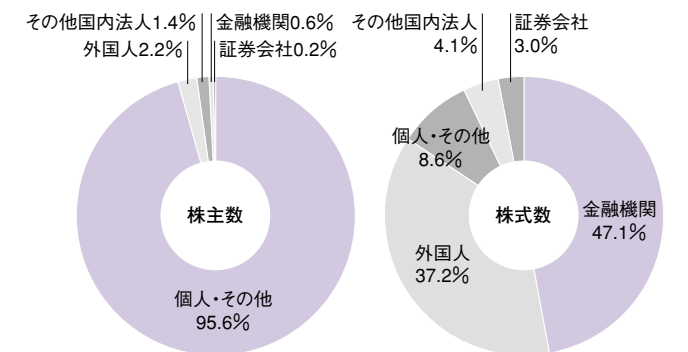
●大株主の状況

株主名	所有株式数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	16,695千株	8.08%
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	15,817	7.66
三井住友海上火災保険株式会社	8,918	4.32
株式会社みずほ銀行	8,779	4.25
株式会社静岡銀行	8,349	4.04
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイロンドン	7,758	3.76
住友生命保険相互会社	7,300	3.53
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,840	3.31
日本生命保険相互会社	6,482	3.14
株式会社みずほコーポレート銀行	5,775	2.80

●株価および株式売買高の推移(東京証券取引所)



●株式分布状況



株主優待のご案内

ヤマハでは、株主の皆様からの日頃のご支援にお応えするとともに、今後もより多くの皆様に当社の事業へのご理解とご支持をいただくことを願い、2006年より株主優待制度を実施しています。

毎年3月31日現在の当社株主名簿にお名前が記載されている100株以上保有の株主様に対して、株主総会後の6月下旬～7月上旬頃に株主優待品をお届けいたします。

100株..... 以上の株主様

優待1 株主優待券 1冊

- ヤマハ楽器レンタル/ヤマハエレクトーン・レンタルシステム登録料無料券 2枚
システム利用時の登録料(2,100円) 無料
- Jリーグ ジュビロ磐田観戦割引券 4枚
ジュビロ磐田主催ホームゲーム(ヤマハスタジアム、エコパスタジアム)の観戦券を平均10%割引

優待2 ヤマハ所属アーティスト株主様限定CD

- ヤマハミュージックコミュニケーションズ所属アーティストの曲を集めたCD

優待3 ヤマハ携帯コンテンツ無料サービス

- [ヤマハ★メロっちゃん!]の音楽ダウンロード
ヤマハの人気コンテンツ「メロっちゃん!」の300円コースが無料
最新のJ-POPをはじめ2万曲を超える着メロが取り放題の携帯電話専用のコンテンツ

1,000株..... 以上の株主様

優待1 + 優待2 + 優待3 さらに

優待4 ヤマハ発行の音楽生活誌「音遊人(みゅーじん)」年6回

- 6月発行分から翌年の4月発行分まで、隔月で年6冊送付します



会社の概要 (2007年3月31日現在)

●商号	ヤマハ株式会社 YAMAHA CORPORATION
●本店	〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10番1号
●設立	1897年10月12日(創業1887年)
●資本金	28,534,856,685円
●従業員数	19,911人(連結) 5,644人(単独) ※いずれも臨時従業員を含んでおりません。
●役員	
取締役	代表取締役会長 岸 田 勝 彦 代表取締役社長 伊 藤 修 二 常務取締役 加 藤 博 万 黒 江 常 夫 梅 村 充 至 長 谷 川 至 八 幡 泰 司 岡 部 比呂男
	取締役
監査役	常勤監査役 太 田 直 幹 堀 越 美知夫 三 浦 州 夫 寺 井 康 晴
	監査役
執行役員	林 田 甫 戸 部 儀 和 高 橋 源 樹 関 口 博 田 丸 卓 也 加 茂 幸 助 新 美 幸 二 吉 良 康 宏 小 原 辰 三 佐 々 木 勉 越 場 正 明 土 井 好 広 中 田 卓 也

株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会の基準日 3月31日
- 定時株主総会 6月
- 期末配当の基準日 3月31日
- 中間配当の基準日 9月30日
- 単元株式数 100株

●公告の方法

電子公告によります。但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載いたします。

<http://www.yamaha.co.jp/>

●株主名簿管理人

東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所

〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号

中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店 証券代行部

同取次所

中央三井信託銀行株式会社本店及び全国各支店、
日本証券代行株式会社本店及び全国各支店

株式事務のお問い合わせ

- 株式の名義書換、単元未満株式買取請求、配当金のお支払及び諸届等は、株主名簿管理人である中央三井信託銀行の事務取扱場所並びに同取次所でお取扱いいたします。

- 手続及び諸届等に関するお問合せ先

0120-78-2031 (平日9:00-17:00)

中央三井信託銀行

- 手続及び諸届等に必要用紙の請求先

0120-87-2031 (24時間受付)

中央三井信託銀行

- 証券保管振替機構(ほふり)に預託されました株券についての手続及び諸届等に関するお問合せは、お取引先の証券会社にお問い合わせください。

●詳しい株主情報は、ヤマハ投資家向け情報をご覧ください。<http://www.yamaha.co.jp/about/ir/>
広報部 広報・IRグループ TEL. 03-5488-6602 FAX. 03-5488-5060



ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10番1号

Tel: 053(460)2800

Fax: 053(460)2802

URL: <http://www.yamaha.co.jp/>



この「業績のご報告」は再生紙に大豆インキで印刷しました。